

令和6年4月15日

南の風第55回全国ミニバスケットボール大会特集号V

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

第55回全国大会の特集では、吉岐リトルソニックスのゲームを取り上げました。

吉岐チームの中嶋監督は「世界一のチームを目指したい」、「今、日本一を目指せないから世界一を目指します」と言っていました。現在の日本の全国ミニバス大会は交流大会です。交流大会か優勝大会か、考え方はいろいろあると思います。因みに私は優勝大会賛成派です。この議論はまたの機会とします。

今年も代々木の体育館は最高でした！ バスケットボールの聖地であり、ミニバスケットボール全国大会の憧れの会場です！ 代々木に来ると、この晴れの舞台でもう一度選手と一緒に戦ってみたい、という思いに駆られます！

今回、女子のゲームを観て強く感じたこと2つを書きます。

一つは1on1のオフェンス力の向上です。2016年～JBAU15で実施しているマンツーマンディフェンス推進が定着し、個のオフェンス力が飛躍的に向上してきました。今年度の全国大会で目を引くことは、女子選手のコンタクトの強さです。ドリブルでのボール運びやペイントドライブの際に、体の寄せ方が非常にハードになり、ディフェンスに圧迫されてもバランスを崩したり、ボールを失ったりすることが減ったように思いました。さらに強豪チームは、シュートに向かう時のボールギャザーもしっかりしており、ディフェンスのリフレクションやボールチェックに対応ができていました。

二つ目はシュートです。ワンモーションで打つ選手が増えました。ワンハンド、ツーハンドで若干違うのですが、ペリメーターのジャンプシュートやジャンピングシュートに表れていました。ワンモーションシュートは皆さんご承知のように、ボールを受けてからリリースするまでが素早いシュートです。ツーモーションに比べ打点は低くなるのですが、シュートチェックやクローズアウトに掛らない利点があります。但しツーモーションに比べて、フォームが身につくまでに時間が掛かるのが難点（ミニバスでは特に）なのですが、フォームがしっかりしている選手が多かったです。

もう一つ、ペイントでのエクステンド（レンジを広げるために腕を伸ばす）シュートの確率が高くなったことです。各チームの多くの選手が当たり前のように取り組み、精度もよかったと思います。

これらのことは各都道府県代表チームの選手の皆さんが、日頃鍛錬に鍛錬を重ねた賜物だと思います。そして、JBAの東野技術委員長が日本全国に呼び掛けている『一気通貫』（トップからU12までのカテゴリーで日本のバスケットボールの方向性を共有）という考えが、浸透してきていることも挙げられます。また忘れてはいけないのが、全国のU12の指導者が、弛まぬ研鑽を積み日々努力され、指導・支援に当たられている成果だと思えます。

最後になります。現在U12カテゴリーでは、リングの高さを3.05mにすること、3Pシュートの導入、6号ボールへの変更が検討されています。（令和6年度は現行のまま）私は賛成の立場です。但し、小学校3年以下については、配慮が必要と考えます。この議論もまたの機会とします。

今年度も代々木第1、第2の体育館で、素晴らしい熱戦を披露してくれた各都道府県代表のチーム皆さんありがとうございました！！皆さんのワンプレー、ワンプレーと大きな声援が、『バスケットで日本を元気に』してくれました。心から敬意を表します！！

これで特集を閉じます。